

胃がんグループ/参加医療機関のみ

手術所見記録(胃癌取り扱い規約第14版、胃癌治療ガイドライン第3版)

対象:2014年3月14日までに手術所見記録用紙1,2が回収された812例

研究事務局の意向により網掛け部分の群間比較データは参加施設に公表しない

	A群 n=406	B群 n=406	計 n=812		A群 n=406	B群 n=406	計 n=812
手術時間(分)				皮膚切開の最大径 (cm)			
中央値	194	275	230.5	中央値	16	5	9
最短-最長	48-445	120-577	48-577	最小-最大	4.0-25.0	1.0-23.0	1.0-25.0
術式				欠損*2	3	0	3
胃粘膜切除術	0	0	0	6cmを超える小切開 (B群のみ)	/		
胃局所切除術	0	0	0	なし		392	392
胃分節切除術	0	0	0	あり*3		14	14
噴門側胃切除術	0	0	0	ポート数(B群のみ)	/		
幽門保存胃切除術	111	103	214	中央値		5	5
幽門側胃切除術	295	302	597	最小-最大		2-6	2-6
胃全摘術	0	1	1	HALS等特殊補助手 技の有無(B群のみ)	/		
その他の切除術	0	0	0	なし		406	406
非切除(吻合術)	0	0	0	あり		0	0
試験開腹	0	0	0	開腹移行の有無 (B群のみ)	/		
胃瘻・腸瘻造設術	0	0	0	なし		392	392
その他の姑息手術	0	0	0	あり*4		14	14
合併切除臓器				主な肉眼型			
なし	375	383	758	0 I型	8	4	12
あり	31	23	54	0 IIa型	21	19	40
ありの場合 (複数選択)				0 IIb型	4	2	6
膵	0	0	0	0 IIc型	313	301	614
脾	0	1	1	0 III型	1	1	2
副腎	0	0	0	0 IIa+IIc型	30	35	65
結腸	0	0	0	0 IIc+IIa型	9	17	26
胆嚢	28	22	50	1型	1	4	5
肝	2	0	2	2型	10	12	22
横隔膜	0	0	0	3型	7	5	12
その他*1	1	0	1	4型	0	0	0
欠損	0	0	0	5型	2	6	8
リンパ節郭清程度				欠損	0	0	0
D0	0	0	0	腫瘍径(cm)			
D1	5	5	10	中央値	2.5	2.6	2.5
D1+	287	311	598	最小-最大	0.7-20.0	0.6-28.0	0.6-28.0
D2	105	83	188	欠損	0	0	0
D2+	7	4	11	手術主占居部位			
その他	0	0	0	U	0	0	0
欠損	2	3	5	M	252	244	496
迷走神経腹腔枝温存 の有無				L	154	162	316
なし	217	233	450	手術占居部位 (複数選択)			
あり	189	173	362	E	0	0	0
再建法(腸管吻合法)				U	1	2	3
R-en-Y	106	107	213	M	259	255	514
BI	186	195	381	L	170	185	355
BII	3	1	4	D	1	0	1
空腸間置	0	0	0	欠損	0	1	1
食道胃吻合	0	0	0				
ダブルトラクト	0	0	0				
バイパス	0	0	0				
胃・胃吻合	111	103	214				
その他	0	0	0				

胃がんグループ/参加医療機関のみ

	A群 n=406	B群 n=406	計 n=812
主占居部位 (断面区分)			
Less	169	154	323
Gre	76	71	147
Ant	63	87	150
Post	96	92	188
Circ	2	2	4
占居部位(断面区分) (複数選択)			
Less	188	181	369
Gre	92	92	184
Ant	91	118	209
Post	123	122	245
Circ	2	2	4
欠損	0	1	1
深達度(T因子) (胃原発巣摘出前)			
T1a-M	125	127	252
T1b-SM	230	236	466
T2-MP	42	37	79
T3-SS	5	5	10
T4a-SE	4	1	5
T4b-SI	0	0	0
TX	0	0	0
深達度(T因子) (胃原発巣摘出後)			
T1a-M	130	133	263
T1b-SM	222	224	446
T2-MP	43	41	84
T3-SS	6	7	13
T4a-SE	5	1	6
T4b-SI	0	0	0
TX	0	0	0
リンパ節転移 (N因子)(13版) (胃原発巣摘出前)			
N0	389	398	787
N1	16	8	24
N2	1	0	1
N3	0	0	0
NX	0	0	0
欠損	0	0	0
リンパ節転移 (N因子)(13版) (胃原発巣摘出後)			
N0	378	393	771
N1	23	13	36
N2	4	0	4
N3	1	0	1
NX	0	0	0
遠隔リンパ節転移			
なし	405	406	811
あり	1	0	1
欠損	0	0	0

	A群 n=406	B群 n=406	計 n=812
肝転移			
H0	406	406	812
H1	0	0	0
HX	0	0	0
腹膜播種(12版)			
P0	406	406	812
P1	0	0	0
P2	0	0	0
P3	0	0	0
遠隔転移			
M0	405	406	811
M1	1	0	1
MX	0	0	0
術中迅速細胞診			
CY0	217	86	303
CY1	0	0	0
CYX	189	320	509
郭清リンパ節総個数			
中央値	45	44	44
最小-最大	11-110	14-94	11-110
切除近位断端(口側)			
PM0	406	406	812
PM1	0	0	0
PMX	0	0	0
切除遠位断端 (肛門側)			
DM0	406	406	812
DM1	0	0	0
DMX	0	0	0
手術的癌遺残度			
R0	406	406	812
R1	0	0	0
R2	0	0	0
RX	0	0	0
手術的進行度(13版) (胃原発巣摘出前)			
0	0	0	0
I A	348	356	704
I B	45	48	93
II	10	1	11
III A	2	1	3
III B	0	0	0
IV	1	0	1
手術的進行度(13版) (胃原発巣摘出後)			
0	0	0	0
I A	340	347	687
I B	46	55	101
II	14	3	17
III A	4	1	5
III B	1	0	1
IV	1	0	1
術中出血量(mL)			
中央値			70
最小-最大			0-1920

*1 合併切除臓器あり「その他」の詳細

No.	群	施設名	詳細
381	A	神奈川県立がんセンター	網嚢 <プロトコル逸脱の可能性の検討 手術>の項参照

胃がんグループ/参加医療機関のみ

*2 皮膚切開の最大径が欠損の症例

No.	群	施設名	詳細
54	A	山形県立中央病院	測定忘れしました
111	A	山形県立中央病院	測定忘れしました
263	A	山形県立中央病院	測定せず

*3 6cmを超える小切開ありの症例(B群のみ)

No.	施設名	詳細
147	神奈川県立がんセンター	腹腔内出血のため
253	静岡県立総合病院	再建終了時、脾下極からの出血あり、同部の凝血塊除去と止血の確認のため創を拡大した
275	国立がん研究センター中央病院	腹腔鏡下に幽門側胃切除、D2 郭清、R-Y 吻合するが、胃空腸吻合がねじれていたため、皮切を 7.5cm に延長し吻合部を切除し再吻合
295	静岡県立静岡がんセンター	開腹移行のため
304	神奈川県立がんセンター	術中診断で SE だったため
342	国立がん研究センター中央病院	開腹手術となったため
354	国立がん研究センター中央病院	開腹手術に移行したため
355	国立がん研究センター中央病院	開腹手術に移行したため
443	国立がん研究センター中央病院	腹腔鏡手術だとリンパ節(No.6)の郭清が不十分になる可能性があったため開腹手術に移行した。
555	天理よろづ相談所病院	開腹移行の為
671	国立がん研究センター中央病院	吻合時手間取り視野を広げるため切開を延長した
714	神奈川県立がんセンター	#8a 郭清の際の出血で開腹へ移行した為
756	国立がん研究センター中央病院	開腹手術に移行
807	神奈川県立がんセンター	胃結腸静脈幹からの出血があり腹腔鏡下で出血コントロール不能と判断

*4 開腹移行のありの症例(B群のみ)

No.	施設名	詳細
147	神奈川県立がんセンター	腹腔内出血のため
253	静岡県立総合病院	再建終了時、脾下極からの出血あり、同部の凝血塊除去と止血の確認のため創を拡大した
275	国立がん研究センター中央病院	腹腔鏡下に幽門側胃切除、D2 郭清、R-Y 吻合するが、胃空腸吻合がねじれていたため、皮切を 7.5cm に延長し吻合部を切除し再吻合
295	静岡県立静岡がんセンター	SS、N1 と判明したため、胃全摘、脾摘を施行
304	神奈川県立がんセンター	術中診断で SE だったため
342	国立がん研究センター中央病院	腹腔鏡下により胃切除を行ったが、胃の切り足しが必要となり、幽門側胃切除となった。小開腹では再建が困難となり開腹手術に移行した
354	国立がん研究センター中央病院	病変と噴門が近接していることが判明。小切開創からの胃切離、吻合は困難と考え開腹術へ移行
355	国立がん研究センター中央病院	標本摘出後、口側胃が小切開創からでは十分に引き出せず、開腹での再建術に移行
443	国立がん研究センター中央病院	腹腔鏡手術だとリンパ節(No.6)の郭清が不十分になる可能性があったため開腹手術に移行した。
555	天理よろづ相談所病院	術中肉眼上 T3(SS)以深疑われた為、開腹移行、D2 郭清にしました。
671	国立がん研究センター中央病院	吻合時手間取り視野を広げるため切開を延長し、開腹手術となった。

胃がんグループ/参加医療機関のみ

No.	施設名	詳細
714	神奈川県立がんセンター	#8a 郭清の際出血し、腹腔鏡では困難であった為、開腹となった。
756	国立がん研究センター中央病院	CHAの走行が腓上縁ではなく頭側より LGAもCHA根部より二本分岐。血管の破播強く手術遂行に伴う安全性の観点から開腹手術に変更した。
807	神奈川県立がんセンター	胃結腸静脈幹からの出血があり腹腔鏡下で出血コントロール不能と判断

術後経過

対象:2014年3月14日までに術後所見記録1が回収された812例
 研究事務局の意向により網掛け部分の群間比較データは参加施設に公表しない

	A群 n=406	B群 n=406	計 n=812
術後排ガスまたは排便 (術後1日目～術後21日目)			
なし	0	0	0
あり	406	406	812
排ガスまたは排便までの 日数(日)			
中央値			3
最小-最大			0-13
鎮痛剤使用の有無			
なし			371
あり			441
体温(最高値、°C)			
術後1日目 中央値			37.7
最小-最大			36.2-39.6
術後2日目 中央値			37.3
最小-最大			35.1-39.5
術後3日目 中央値			37
最小-最大			35.2-39.9
入院期間中 中央値			37.8
最小-最大			36.5-40.1
欠損			1
術後転帰			
軽快	405	406	811
転科/転院	1	0	1
死亡	0	0	0
再手術			
なし	405	404	809
あり*1	1	2	3
術中～初回退院までの輸血			
濃厚赤血球			
なし	405	403	808
あり	1	3	4
凍結血漿			
なし	405	404	809
あり	1	2	3
その他			
なし	406	406	812
あり	0	0	0

胃がんグループ/参加医療機関のみ

*1. 再手術「あり」の症例

No.	群	施設名	詳細
334	A	神奈川県立がんセンター	術後6日目より胃排出障害があり、保存的治療で改善せず、9/14再手術となった。癒着により脾動脈温存できず、残胃全摘+脾摘となった。術後十二指腸断端からリークがあり、9/23エコー下、9/26CT下ドレナージ施行。経過良好にて10月26日退院となった
238	B	静岡県立静岡がんセンター	腸閉塞に対し癒着剥離術、消化管吻合術施行。その時に後出血あり再開腹止血術施行
434	B	函館厚生院函館五稜郭病院	術後出血

病理所見記録(胃癌取り扱い規約第14版、胃癌治療ガイドライン第3版)

対象:2014年3月14日までに病理所見記録用紙1が回収された811例

	A群 n=405	B群 n=406	計 n=811		A群 n=405	B群 n=406	計 n=811
原発巣の主な組織型				腹膜播種			
Pap	3	7	10	pP1ではない	404	406	810
tub1	75	77	152	pP1	1	0	1
tub2	91	99	190	腹腔洗浄細胞診			
por1	31	16	47	pCY0	237	108	345
por2	103	108	211	pCY1	0	0	0
Sig	97	94	191	pCYX	166	298	464
Muc	1	0	1	欠損	2	0	2
カルチノイド腫瘍	0	0	0	組織学的切除近位断端 (口側)			
内分泌細胞癌	1	1	2	pPM0	404	406	810
リンパ球浸潤癌	2	3	5	pPM1	1	0	1
肝様腺癌	0	0	0	pPMX	0	0	0
腺扁平上皮癌	0	0	0	組織学的切除遠位断端 (肛門側)			
扁平上皮癌	0	0	0	pDM0	405	405	810
未分化癌	0	1	1	pDM1	0	1	1
その他の癌	1	0	1	pDMX	0	0	0
不明	0	0	0	R分類			
欠損	0	0	0	R0	404	404	808
組織学的深達度(T因子)				R1	1	1	2
pT1a-M	177	197	374	R2	0	0	0
pT1b-SM	182	156	338	RX	0	0	0
pT2-MP	25	42	67	欠損	0	1	1
pT3-SS	17	8	25	組織学的Stage (13版)			
pT4a-SE	4	2	6	IA	325	321	646
pT4b-SI	0	0	0	IB	44	57	101
pTX*	0	1	1	II	27	23	50
組織学的リンパ節転移 (N因子)				IIIA	8	4	12
(13版)				IIIB	0	0	0
pN0	347	354	701	IV	1	0	1
pN1	41	41	82	欠損	0	1	1
pN2	16	10	26	(14版)			
pN3	0	0	0	IA	325	321	646
pNX	1	0	1	IB	39	50	89
欠損	0	1	1	IIA	18	18	36
(14版)				IIB	10	12	22
pN0	347	354	701	IIIA	7	5	12
pN1	38	35	73	IIIB	4	0	4
pN2	10	8	18	IIIC	0	0	0
pN3a	7	5	12	IV	1	0	1
pN3b	2	4	6	欠損	1	0	1
pNX	0	0	0				
欠損	1	0	1				
肝転移							
pH1ではない	405	406	811				
pH1	0	0	0				

*pT0をpTXとして集計(No.452)

胃がんグループ/参加医療機関のみ

リンパ節転移・郭清

対象:2014年3月14日までに病理所見記録2が回収された812例

	A群 n=405	B群 n=407	計 n=812
リンパ節郭清個数			
中央値	39	38	39
最小-最大	11-110	8-94	8-110
欠損	1	2	3
リンパ節転移個数			
中央値	0	0	0
最小-最大	0-19	0-42	0-42
欠損	1	1	2
No.1			
-	398	402	800
+	7	4	11
郭清せず	0	0	0
欠損	0	1	1
No.2			
-	3	1	4
+	0	0	0
郭清せず	401	405	806
欠損	1	1	2
No.3a*			
-	379	376	755
+	21	20	41
郭清せず	0	0	0
欠損	5	11	16
No.3b*			
-	388	381	769
+	12	15	27
郭清せず	0	0	0
欠損	5	11	16
No.3*			
-	378	379	757
+	27	27	54
郭清せず	0	0	0
欠損	0	1	1
No.4sa			
-	2	1	3
+	0	0	0
郭清せず	403	404	807
欠損	0	2	2
No.4sb			
-	404	403	807
+	1	3	4
郭清せず	0	0	0
欠損	0	1	1
No.4d			
-	382	383	765
+	23	23	46
郭清せず	0	0	0
欠損	0	1	1
No.5			
-	322	318	640
+	0	8	8
郭清せず	82	80	162
欠損	1	1	2

	A群 n=405	B群 n=407	計 n=812
No.6			
-	396	392	788
+	9	14	23
郭清せず	0	0	0
欠損	0	1	1
No.7			
-	399	401	800
+	6	5	11
郭清せず	0	0	0
欠損	0	1	1
No.8a			
-	391	396	787
+	8	5	13
郭清せず	6	5	11
欠損	0	1	1
No.9			
-	391	399	790
+	7	2	9
郭清せず	7	5	12
欠損	0	1	1
No.10			
-	2	4	6
+	0	0	0
郭清せず	402	401	803
欠損	1	2	3
No.11p			
-	257	253	510
+	1	1	2
郭清せず	144	149	293
欠損	3	4	7
No.11d			
-	2	3	5
+	0	0	0
郭清せず	402	403	805
欠損	1	1	2
No.12a			
-	114	89	203
+	0	1	1
郭清せず	290	315	605
欠損	1	2	3
No.14v			
-	23	11	34
+	0	0	0
郭清せず	382	393	775
欠損	0	3	3

* #3 は 3a、3b の両方が郭清されている場合は「郭清あり」、どちらか一方でも郭清されていない場合は「郭清なし」として集計。
#3a、3b とわけて記載されていない場合は#3a、3b を欠損とし、#3 として「郭清あり」とした。

胃がんグループ/参加医療機関のみ

5. 治療経過要約

対象:2014年3月14日までに治療終了報告が回収され、マニュアルチェックを実施した816例

	A群	B群	計
治療中、または終了報告用紙未回収	53	52	105
終了または中止の理由	406	410	816
1.プロトコル治療完了	402	405	807
2.プロトコル治療無効	0	1	1
3.有害事象による中止	0	0	0
4.有害事象との関連が否定できない患者拒否	0	0	0
5.有害事象との関連が否定できる患者拒否	4	1	5
6.治療期間中の死亡	0	0	0
88.その他	0	3	3

「完了」以外のプロトコル治療中止理由及び終了理由の検討を要する例

以下、網掛けはグループによる検討済み

群	No.	施設名	中止理由	担当医コメント	データセンターコメント	グループ検討結果
A	49	静岡県立静岡がんセンター	5.有害事象との関連が否定できる患者拒否	割付後に腹腔鏡手術を希望したい旨の意思あり。最終的に7月7日に同意撤回し、プロトコル治療中止となる。	腹腔鏡手術施行	5.有害事象との関連が否定できる患者拒否
A	72	大阪大学医学部	1.プロトコル治療完了	<手術所見記録> 登録翌日腹腔鏡手術を希望されたため	腹腔鏡手術施行	5.有害事象との関連が否定できる患者拒否
A	661	函館五稜郭病院	88.その他	登録後、参加取り消しを希望したため 【2012年度後期間い合わせ】 同意撤回:研究参加への同意を撤回し、以後のプロトコルに従った治療、フォローアップのすべてを不可とする に該当との返答	胃切除術なし	5.有害事象との関連が否定できる患者拒否
A	637	愛知がんセンター中央病院	1.プロトコル治療完了	なし	<病理所見記録1> R1	1.プロトコル治療完了
A	694	静岡県立総合病院	5.有害事象との関連が否定できる患者拒否	ランダム化の説明や1/2で開腹群となる話を十分した上で同意を頂きエントリーしましたが、後日、腹腔鏡手術を希望され、同意の撤回をされてしまいました(他院へ行かれました) 【2013年度前期間い合わせ】 同意撤回:研究参加への同意を撤回し、以後のプロトコルに従った治療、フォローアップのすべてを不可とする に該当との返答	胃切除術なし	
B	159	兵庫県立がんセンター	1.プロトコル治療完了	なし	<病理所見記録1> R1	2.プロトコル治療無効と判断し、中止 →1.プロトコル治療完了
B	291	静岡県立総合病院	88.その他	紹介医の生検はtub1のため登録したが、その後の当院の生検で癌を証明できず。①2011/6/20 ②2011/7/20 ③2011/9/14 ④2011/11/10の計4回の生検で癌が証明できないため手術中止とした。2011/11/14は最終生検結果判明日です	<適格性の検討> の項参照	88.その他

胃がんグループ/参加医療機関のみ

群	No.	施設名	中止理由	担当医コメント	データセンター コメント	グループ 検討結果
B	295	静岡県立静岡がんセンター	1.プロトコール治療完了	<手術所見記録> SS、N1と判明したため、胃全摘、脾摘を施行	胃全摘術施行	2.プロトコール治療無効と判断
B	434	函館五稜郭病院	3.有害事象による中止	術後出血による開腹手術施行	幽門側胃切除を行い手術は終了している ので、1.完了か	1.プロトコール治療完了
B	531	大阪成人病センター	88.その他	Step biopsyにて陽性、胃全摘の適応となり中止した。	<適格性の検討> の項参照	88.その他
B	608	函館五稜郭病院	88.その他	登録直後に本人よりランダム化拒否の申し出あり。プロトコール治療を中止とした。	なし	5.有害事象との関連が否定できる患者拒否
B	701	国立がん研究センター中央病院	88.その他	手術開始後心電図に異常(心筋梗塞疑い)出現し手術中止(胃切除前)	胃切除術なし	

6. プロトコール逸脱の可能性の検討

以下、網掛けはグループによる検討済み

<登録後 28 日以内に手術ができなかった例>

群	No.	施設名	登録日	詳細	グループ 検討結果
A	445	神奈川県立がんセンター	39 日	術前の麻酔科受診でプレマリン服用のため、1 か月間の休薬後手術施行と指示され、12/13 の手術予定が 1/10 へ延期されたため	逸脱
A	457	北里大学医学部	34 日	患者の都合により、手術が延期されたため	
A	464	国立がん研究センター東病院	29 日	血糖コントロールの必要があったため	
A	583	静岡県立静岡がんセンター	30 日	28 日以内と勘違いしていました。	
A	645	神奈川県立がんセンター	31 日	日程調整つかず、やむを得ず延期	
A	666	神奈川県立がんセンター	32 日	進行症例を優先させた結果、予定日が遅延してしまっただけ	
A	693	神奈川県立がんセンター	29 日	進行症例を優先させた結果、予定日が遅延してしまっただけ	
B	712	神奈川県立がんセンター	34 日	日程調整不可にて、やむを得ず延期	

<腹腔洗浄細胞診施行>

未: 腹腔洗浄細胞診施行せず

群	No.	施設名	深達度		腹腔洗浄細胞診		詳細<担当医コメント>	グループ 検討結果
			術中(胃原発巣 摘出前/摘出後)	病理	手術	病理		
A	116	愛知県がんセンター中央病院	T2-MP/T2-MP	pT1a-M	未	未	失念のため	逸脱
A	320	神奈川県立がんセンター	T2-MP/T1b-SM	pT2-MP	未	未	術中診断では T1 だったため	問題なし
A	589	愛知県がんセンター中央病院	T3-SS/ pT1a-M	p T3-SS	未	CY0	手術時、迅速診断に提出しなかったため手術所見としては CYX になります。病理所見としては CY0	
A	790	国立がん研究センター中央病院	T2-MP/T2-MP	pT2-MP	未	CY0	術中迅速ではなく確定診断として依頼提出済み	
B	7	神奈川県立がんセンター	T2-MP/T2-MP	pT2-MP	未	未	術前診断 MP で省略	逸脱
B	8	神奈川県立がんセンター	T2-MP/T2-MP	pT1b-SM	未	未	cMP の診断で実施せず	逸脱
B	16	愛知県がんセンター中央病院	T2-MP/T2-MP	pT3-SS	未	CY0	術中迅速標本提出せず、術後 CY0 と判明	問題なし

胃がんグループ/参加医療機関のみ

群	No.	施設名	深達度		腹腔洗浄細胞診		詳細<担当医コメント>	グループ検討結果
			術中(胃原発巣摘出前/摘出後)	病理	手術	病理		
B	243	国立がん研究センター中央病院	T2-MP/T2-MP	pT1a-M	未	未	術中 T1b-SM と判断し細胞診行わず、術後 T2-MP と診断(T1b-SM/T2-MP に修正)	問題なし
B	350	国立がん研究センター中央病院	T2-MP/T2-MP	pT1a-M	未	未	術中 SM と判断し細胞診行わず原発巣とり出し OP 後 MP と診断(T1b-SM/T2-MP に修正)	問題なし
B	601	神奈川県立がんセンター	T2-MP/T2-MP	pT2-MP	未	CY0	T2 の診断であったが、腹腔内洗浄細胞診を行うのを忘れてしまったため	逸脱
B	703	愛知県がんセンター中央病院	T2-MP/T2-MP	T2-MP	未	未	失念のため	
B	718	国立がん研究センター中央病院	T2-MP/T2-MP	pT1b-SM	未	未	失念	
B	819	国立がん研究センター中央病院	T2-MP/T2-MP	T2-MP	未	未	通常腹腔鏡手術では行わないため失念していた	

<リンパ節郭清>

群	No.	施設名	腫瘍径 (cm)	詳細	グループ検討結果
A	58	国立がん研究センター中央病院	2.0	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N1、D1+ α であるが、#11p 郭清なし→問い合わせ結果:#11p 郭清、D2 実施	問題なし
A	155	国立がん研究センター中央病院	1.5	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T2-MP、N1、D1+ α であるが、#12a 郭清なし→問い合わせ結果:#12a 郭清、D2 実施	問題なし
A	447	神奈川県立がんセンター	2.5	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N0 であるが、D2+(14v、16a2)実施→問い合わせ結果:#14、16a2 は、各々#6、11p 郭清に伴いとれたもので系統的なものではありません。D2 に修正します。	問題なし
A	544	静岡県立静岡がんセンター	6.8	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N0 であるが、D2+(14v)実施	問題なし
A	552	栃木県立がんセンター	2.7	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N1 であるが、D2+(8p)実施→#8p 郭清、D2+(8p)実施	
A	595	静岡県立静岡がんセンター	3.5	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T4a-SE、N0 であるが、D2+(12p、12b、13、14v)実施	
B	16	愛知県がんセンター中央病院	4.0	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T2-MP、N0、D2 であるが、#3b 郭清なし【11 年度前期】#3b「郭清あり」へ変更の連絡あり	問題なし
B	25	神奈川県立がんセンター	2.5	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N0、D1+ α であるが、#9 郭清なし→問い合わせ結果:#9 郭清	問題なし
B	28	神奈川県立がんセンター	5.0	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N0、D1+ α であるが、#9 郭清なし→問い合わせ結果:#9 郭清	問題なし
B	37	仙台医療センター	2.0	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T2-MP、N0、D1+ α であるが、#12a 郭清なし T1b-SM に修正	問題なし
B	201	仙台医療センター	3.0	幽門側胃切除術、術中深達度(胃原発巣摘出前)T1b-SM、N1、D1+ α であるが、#12a 郭清なし <データセンターコメント> 修正 CRF 受領。N1→N0 に修正あり	問題なし

胃がんグループ/参加医療機関のみ

群	No.	施設名	腫瘍径(cm)	詳細	グループ 検討結果
B	249	愛知がんセンター 中央病院	2.0	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N0、D1+であるが、#3b、#5 郭清なし→問い合わせ結果:#3b、#5 郭清	問題なし
B	259	愛知がんセンター 中央病院	4.0	幽門側胃切除術、(胃原発巣摘出前)術中深達度 T1b-SM、N0、D1+であるが、#9 郭清なし→問い合わせ結果:#9 郭清	問題なし

<手術>

群	No.	施設名	詳細	グループ 検討結果
A	381	神奈川県立 がんセンター	網嚢を合併切除 →問い合わせ結果:JCOG1001の規定に従った 切除を実施	

<後治療(術後補助療法)>

群	No.	施設名	使用薬剤	pT (14版)	pN (13版)	pStage (13版)	R分類	グループ 検討結果
A	69	神奈川県立 がんセンター	S-1	pT1b (SM)	pN2	II	R0	逸脱
A	112	神奈川県立 がんセンター	S-1	pT1b (SM)	pN2	II	R0	逸脱
A	622	静岡県立総合病 院	S-1	pT1b (SM)	pN1	I B	R0	
B	201	仙台医療 センター	S-1	pT1b (SM)	pN2	II	R0	逸脱
B	374	国立がん研究セ ンター中央病院	S-1	pT1b (SM)	pN2	II	R0	逸脱
B	484	富山県立中央病 院	S-1	pT1b (SM)	pN2	II	R0	
B	563	広島市立広島市 民病院	S-1	pT1b (SM)	pN0	I A	R0	
B	605	国立がん研究セ ンター中央病院	S-1	pT1b (SM)	pN2	II	R0	
B	768	函館厚生院函館 五稜郭病院	S-1	pT1a (M)	pN0	I A	R0	

胃がんグループ/参加医療機関のみ

7. 安全性の評価

7.1. 重篤な有害反応/有害事象

以下、網掛けはグループによる検討済み、因果関係： A: not related, B: unlikely, C: possible, D: probable, E: definite

在院死

なし

プロトコル治療中および最終プロトコル治療日から 30 日以内の死亡

なし

最終プロトコル治療日から 31 日以降の治療関連死疑い

なし

担当医報告による原病死・治療関連死以外の死因

No.	群	施設名	死因	最終治療日から死亡日までの日数	詳細	グループ検討結果
		静岡県立静岡がんセンター	他病死	POD547	MDS に対して骨髄移植施行するも再燃、化学療法施行するも肺炎を併発、MDS の増悪も認め死亡。	他病死
		神奈川県立がんセンター	他病死	POD1047	食事摂取不良で、3月18日入院し、3/19のCTにて膵体部癌、十二指腸浸潤、腹膜播種、肺転移の診断となる。3月25日に肺炎、十二指腸通過障害を併発。4/2 右気胸にて呼吸状態悪化。4/5に死亡された。	
		神奈川県立がんセンター	不明	POD738	2012年7月下旬より嘔吐、食欲低下があり他院を受診し Na120 台であった為、4日間補液をした。8月2日に当院緊急受診しNa109と低Na血症であったため入院して補液を開始。CT、透視を行い異常なく、又食事も摂取でき8月6日 Na132 と回復傾向になり8月7日退院した。8月22日外来が入っていたが来院されなかった。今回の追跡調査で住民票調査をし患者が死亡されたことがわかった為詳細は不明。	
		静岡県立静岡がんセンター	他病死	POD735	肺炎にて死亡	
		静岡県立静岡がんセンター	他病死	POD591	酔って側溝に転落し死亡しているのを発見された	他病死
		函館厚生院函館五稜郭病院	他病死	不明 (ランダム化を拒否し中止したため) <「完了」以外のプロトコル治療中止理由及び終了理由の検討を要する例>参照	急性心不全(心筋梗塞)にて死亡	
		静岡県立静岡がんセンター	他病死	POD897	2013年11月頃より下肢痛などあり近医の整形外科で診ていただきましたがその頃から認知症となり食事とらない状況でした。2014 1/8 当院に高度脱水で入院、輸液などしましたが肺炎併発し亡くなりました。再発は確認されていないので他病死としました。	

胃がんグループ/参加医療機関のみ

No.	群	施設名	死因	最終治療日から死亡日までの日数	詳細	グループ検討結果
		静岡県立静岡がんセンター	他病死	POD755	2014 1/15 中咽頭癌(T4bN2cM0)となり中咽頭癌で死亡されました。胃癌の再発は確認されていません。	

【データセンターコメント:2014 年前期】

割付のあるすべての試験において、割付群および登録番号の情報はマスクすることとした。

Grade 4 の術中合併症(CTCAE ver.4.0 による)

なし

Grade 4 の術後早期合併症(CTCAE ver.4.0 による)

No.	群	施設名	合併症	因果関係(担当医報告)	出現時期	詳細	委員会審査結果/グループ検討結果
32	B	愛知県がんセンター中央病院	AST 増加	E	POD1	【有害事象報告より】 2010年5月29日の血液検査にてAST 707 IU/L(当院基準値 10-35)と上昇。身体所見では術後1日目としての異常は特に認めず。5月31日の血液検査ではAST 188と改善。その後6月2日 49、6月4日 33と基準値範囲内に低下した。6月7日に退院。	委員会によるプロトコール治療(腹腔鏡下胃切除)との因果関係判定: probable
35	B	神奈川県立がんセンター	ALT 増加 AST 増加	C	POD1	術後の採血にてAST/ALTが高値であったが、翌日6/9の採血で2240/2070まで上昇した。経過良好にて術後8日目6/16に軽快、退院された。	委員会によるプロトコール治療(腹腔鏡下胃切除)との因果関係判定: possible
202	A	国立がん研究センター中央病院	ALT 増加 AST 増加	B	POD2	なし	
313	A	国立がん研究センター中央病院	AST 増加	E	POD1	なし	委員会によるプロトコール治療(胃切除術)との因果関係判定: probable
381	A	神奈川県立がんセンター	ALT 増加 AST 増加	D	POD1	なし	
873	B	神奈川県立がんセンター	高アミラーゼ血症	D	POD1	保存的に軽快	

定型項目以外の Grade 3 の術中合併症(CTCAE ver.4.0 による)

なし

胃がんグループ/参加医療機関のみ

定型項目以外の Grade 3 の術後早期合併症 (CTCAE ver.4.0 による)

No.	群	施設名	合併症	因果関係 (担当医 報告)	出現時期	詳細	委員会審査結果/ グループ検討結果
64	A	神奈川県立 がんセンター	血清アミラーゼ 増加	D	POD1	術後 1 日目の採血にて AMY が 334 に上昇。8/5 ～8/8 までフサンを投与し た。8/10 の採血では 97 ま で回復し、8/11 軽快退院 となった。	予期される術後早 期合併症
79	A	愛知県 がんセンター 中央病院	大腸炎	D	POD7	9/8、T 39.0、W 13440、 下痢 G2 9/9～9/16 Rp. パ ンコマイシン 4T 4×1 内服 で軽快。便培養(－) 9/9 CT 所見異常なし。	予期される術後早 期合併症
136	A	岩手医科大学	高血圧	B	POD1	もともと高血圧にて加療中 の症例。内服開始再開に 伴い高血圧出現なし。	予期されない術後 早期合併症だが因 果関係なしのため 報告不要
364	B	国立がん 研究センター 中央病院	発熱	C	POD29	40.0℃の発熱を認め、誤 嚥を疑い抗生剤投与 3 日 間で完全解熱(胸部 X-P に異常は認められなかつ た)	予期される術後早 期合併症
374	B	国立がん 研究センター 中央病院	発熱 →カテーテル関 連感染	C	POD6	末梢点滴刺入部感染。抜 針さしかえ、抗生物質投 与により解熱	予期される術後早 期合併症
633	B	国立がん 研究センター 中央病院	腹腔内血腫 →腹腔内出血	D	POD11	術後の出血が自然に止血 し血腫形成。8 月 16 日ド レナージ(エコー下)行い、 排液後症状改善する	予期される術後早 期合併症
638	B	国立がん 研究センター 中央病院	十二指腸瘻	D	POD3	8/16 発熱、ドレーンより排 液、CT より十二指腸断端 縫合不全みられ、ドレーン の間欠吸引、抗生剤の投 与、禁食等。保存的処置 により改善 9/8 (POD26) ドレーン抜去し 9/9 退院と なる	予期される術後早 期合併症
653	B	国立がん 研究センター 中央病院	膵炎	D	POD2	血清アミラーゼの上昇あ り、膵酵素阻害剤投与し 改善	

胃がんグループ/参加医療機関のみ

Grade 4 の術後晩期合併症(CTCAE ver.4.0 による)

No.	群	施設名	合併症	因果関係 (担当医 報告)	出現時期	詳細	委員会審査結果/ グループ検討結果
224	A	愛知県 がんセンター 中央病院	腸閉塞	D	POD318	<有害事象報告より> 2012/1/12 頃より便が出 にくいとの訴えあり、 2012/2/13 に腹部 CT 施 行したところ R-Y 吻合部 を先進部とする腸重積の 所見を認めた。2012/2/20 に腹部 CT 再検したが改 善傾向なく同日緊急手術	委員会によるプロト コール治療(胃切除 術)との 因果関係判定: probable
65	B	神奈川県立 がんセンター	低 Na 血症	B	POD654	8 月 2 日(POD654) に当科緊急受診し Na109 と低 Na 血症を認めた為 入院。補液をし CT 透視で 異常はみられず食事摂取 出来ていたため 8 月 7 日 に退院された。 【追跡調査より】 住民票調査をし患者が死 亡されたことが分かった (8 月 9 日死亡)が詳細は 不明	
341	B	広島市立広島 市民病院	小腸閉塞	D	POD306	なし	

胃がんグループ/参加医療機関のみ

定型項目以外の Grade 3 の術後晩期合併症 (CTCAE ver.4.0 による)

群	No.	施設名	合併症	因果関係 (担当医 報告)	出現時期	詳細	委員会審査結果/ グループ検討結果
A	273	国立がん研究センター中央病院	肝機能障害	B	POD38	経過観察となる	予期されない術後早期合併症だが因果関係なしのため報告不要
A	538	名古屋大学医学部	術後消化管縫合不全(胃吻合部漏出)	E	POD18	エコーガイド下ドレナージ術を行い軽快。13POD-37POD まで入院加療	
A	665	国立がん研究センター中央病院	胃排出遅延)	C	POD586	胃内容排出遅延のため4/22 入院。絶飯食点滴の保存的療法で改善し4/30 退院となる。	
A	839	静岡県立総合病院	食欲不振	D	POD16	外来点滴施行。六君子湯内服。2 週間で改善。	
B	7	神奈川県立がんセンター	発熱性好中球減少に伴う感染	B	POD324	2011/3/9 より食欲不振が続いていたが、3/16 の朝、39 度の発熱と電話があり、来院された。XP と CT により発熱性好中球減少に伴う肺炎と診断され、同日入院、治療し、4/7 軽快退院。	予期される術後晩期合併症 有害事象名「術後肺炎」に読替え
B	16	愛知県がんセンター中央病院	胃出血	E	POD14	2010/5/17 退院。5/20 再診時問題なし。5/21 夕、吐物に血まじる。5/22 吐血、緊急入院となる。胃カメラにて吻合部の潰瘍出血及びびらんから出血あり。輸血4 単位施行。その後は保存的に改善した。6/2 退院。	委員会によるプロトコール治療(腹腔鏡下胃切除)との因果関係判定: possible
B	114	国立がん研究センター中央病院	肝機能障害	A	POD179	経過観察、自然軽快	予期されない術後早期合併症だが因果関係なしのため報告不要
B	330	静岡県立静岡がんセンター	下部消化管出血	A	POD67	内視鏡的ポリープの切除で出血	
				A	POD77	消化管出血:小腸ポリープ→EMR 施行。その後出血なし	
B	513	栃木県立がんセンター	便秘	B	POD324	便秘による腹痛あり。排便後、多量に排便あり、腹痛消失。便秘回復する。	

二次がん/重複がんの可能性

群	No.	施設名	二次がん /重複がん	診断時期	詳細
		国立がん研究センター中央病院	右肺上葉腺癌	POD751	右肺上葉腺癌に対しては、6/11 以降に手術予定(右肺上葉切除予定)
		静岡県立静岡がんセンター	骨髄異形成症候群	POD264	なし

胃がんグループ/参加医療機関のみ

群	No.	施設名	二次がん /重複がん	診断時期	詳細
		静岡県立静岡がんセンター	膵体部癌	POD1030	食事摂取不良で、3月18日入院し、3/19のCTにて膵体部癌、十二指腸浸潤、腹膜播種、肺転移の診断となる。
		愛知県がんセンター中央病院	(噴門部)残胃癌	POD1152	残胃全摘
		兵庫県立がんセンター	右肺	POD974	なし
		国立がん研究センター中央病院	右中葉 肺腺癌	POD1338	右中葉 肺腺癌→放治
		神奈川県立がんセンター	MALT リンパ腫	POD22	病理にて胃切除検体の腫瘍とは別の部位
		大阪大学医学部	尿道	POD1197	なし
			膀胱内皮癌	POD1261	なし
		国立がん研究センター中央病院	残胃	POD1112	2013/11/7 残胃癌に対し ESD 施行 治癒切除
		国立がん研究センター中央病院	下咽頭	POD565	2012/12/7 下咽頭に対し EMR 施行
		国立がん研究センター中央病院	前立腺	POD216	2012年(月日は不明)他院で診断、手術。詳細不明
		国立がん研究センター中央病院	食道癌	POD232	食道癌(低異型度上皮内腫瘍)2012/2/21 診断、同日 EGD 切除 2014/1/30 診断、3/246EMR 施行
		神奈川県立がんセンター	左乳癌	POD462	なし
		静岡県立総合病院	下行結腸	POD353	なし
		東京医科歯科大学	左肺癌	POD236	なし
		国立がん研究センター中央病院	食道	POD740	2013/12/16 表在性食道癌で EMR 施行
		愛知県がんセンター中央病院	乳癌	POD360	なし
		国立がん研究センター中央病院	右乳房	POD385	2013年1月22日右乳癌により右乳房全摘、リンパ節郭清施行 3月27日~5月7日まで放治
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	肺	POD820	なし
		天理よろづ相談所病院	MALT リンパ腫	POD6	切除標本に MALT リンパ腫の合併を認めました
		静岡県立総合病院	右乳腺	POD175	なし
		愛知県がんセンター中央病院	左腎盂がん	POD497	なし
		国立がん研究センター中央病院	右肺	POD354	2013/8/14 原発性肺癌で右上葉切除する
		神奈川県立がんセンター	残胃 U 領域	POD110	なし
		がん研究会有明病院	食道	POD379	なし
		静岡県立総合病院	顔面皮膚	POD45	なし

胃がんグループ/参加医療機関のみ

群	No.	施設名	二次がん /重複がん	診断時期	詳細
		神奈川県立がんセンター	S状結腸	POD60	2010/5/12 に大腸内視鏡検査を実施。S状結腸に Isp polyp をみとめた。内視鏡所見で悪性所見なく経過観察とされていた。2010/7/16 に S状結腸の Isp polyp に対して polypectomy を行い adeno carcinoma、tub1>tub2、sm2(1100 μm) と診断された。
		国立がん研究センター中央病院	残胃	POD727	手術部位(初発部位)とは無関係の粘膜に発生した早期胃癌であるため
		国立がん研究センター中央病院	食道	POD127	2011/3/11 診断、5/18 EMR 施行 2011/11/4 診断、12/21 EMR 施行 2012/5/18 診断、6/28 EMR 施行 2013/11/11 診断、3/12ESD 施行
		神奈川県立がんセンター	前立腺癌	POD1268	なし
		静岡県立静岡がんセンター	直腸癌	POD68	なし
		国立がん研究センター中央病院	前立腺	POD557	2012/11/27 根治的前立腺全摘+両側リンパ節郭清施行
		国立がん研究センター中央病院	食道	POD566	2012/12/17 食道 EMR
		愛知県がんセンター中央病院	原発不明癌(縦隔リンパ節転移)	POD1121	なし
		国立がん研究センター中央病院	子宮体部	POD1104	なし
		国立がん研究センター中央病院	胃	POD389	2012/12/6 ESD 施行
		国立がん研究センター中央病院	上行結腸	POD700	上行結腸癌に対し 2013/12/10 腹腔鏡下結腸右半切除術+D2 施行
		石川県立中央病院	前立腺	POD325	なし
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	右乳房	POD417	なし
		静岡県立静岡がんセンター	中咽頭	POD688	なし
		天理よろづ相談所病院	胃癌	POD14	術前良性腫瘍と思われていた部分に癌を認め pT3(SS)N1 のため補助療法を行っています。同時性重複癌です。
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	右乳房	POD374	なし
		国立がん研究センター中央病院	食道	POD366	食道表在癌により 2013/9/10 ESD
		関西医科大学附属枚方病院	前立腺	POD532	なし
		神奈川県立がんセンター	左肺癌	POD211	なし

【データセンターコメント:2014 年前期】

割付のあるすべての試験において、割付群および登録番号の情報はマスクすることとした。

胃がんグループ/参加医療機関のみ

7.2. 一般的な有害事象(CTCAE ver.4.0 日本語訳 JCOG 版、Clavien-Dindo 分類による)

基準値について

- ・ 2014 年度前期より JCOG 共用基準範囲を用いた。
 - ・ 使用した共用基準値テーブル: normal_common.sas7bdat(更新日時-2014 年 6 月 25 日、13:39:27)
- 研究事務局の意向により網掛け部分の群間比較データは参加施設に公表しない。

術中合併症

[A 群] 対象:2014 年 3 月 14 日までに手術所見記録 2 が回収された 406 例

CTCAE4.0	G0	G1	G2	G3	G4	%G2-4	%G3-4	%G4	合計	欠損
血栓塞栓症										
術中肝胆道系損傷										
術中動脈損傷										
術中静脈損傷										
術中消化管損傷										
術中脾臓損傷										

[B 群] 対象:2014 年 3 月 14 日までに手術所見記録 2 が回収された 406 例

CTCAE4.0	G0	G1	G2	G3	G4	%G2-4	%G3-4	%G4	合計	欠損
血栓塞栓症										
術中肝胆道系損傷										
術中動脈損傷										
術中静脈損傷										
術中消化管損傷										
術中脾臓損傷										

[合計] 対象:2014 年 3 月 14 日までに手術所見記録 2 が回収された 812 例

CTCAE4.0	G0	G1	G2	G3	G4	%G2-4	%G3-4	%G4	合計	欠損
血栓塞栓症	812	0	0	0	0	0	0	0	812	
術中肝胆道系損傷	810	2	0	0	0	0	0	0	812	
術中動脈損傷	812	0	0	0	0	0	0	0	812	
術中静脈損傷	808	3	1	0	0	0.1	0	0	812	
術中消化管損傷	811	1	0	0	0	0	0	0	812	
術中脾臓損傷	811	—	1	0	0	0.1	0	0	812	

<プロトコル治療期間中、定型項目として記録されている非血液毒性が 1 つ以上見られた患者の割合(術中合併症)>

対象:2014 年 3 月 14 日までに手術所見記録 2 が回収された 812 例

	A 群 N=406		B 群 N=406	
	例数	割合	例数	割合
Grade2 以上	0	0.0	2	0.5
Grade3 以上	0	0.0	0	0.0
Grade4	0	0.0	0	0.0

胃がんグループ/参加医療機関のみ

術後早期合併症(手術終了後から初回退院まで)

[A群] 対象:2014年3月14日までに術後所見記録2が回収された406例

	CTCAE4.0	G0	G1	G2	G3	G4	%G2-4	%G3-4	%G4	合計	欠損
瘵液瘵	瘵瘵										
術後出血	術後出血										
腹腔内膿瘍	腹膜炎										
消化管縫合不全	胃腸吻合部漏出										
消化管 吻合部狭窄	傷害、中毒および 処置合併症、その他 (吻合部狭窄)										
胆嚢炎	胆嚢炎										
ダンピング症候群	胃腸障害、その他 (ダンピング症候群)										
胃排出遅延	胃腸障害、その他 (胃排出遅延)										
逆流性食道炎	胃食道逆流性疾患										
閉塞性イレウス	小腸閉塞										
麻痺性イレウス	イレウス										
血栓症/塞栓症	血栓塞栓症										
術後肺炎	肺炎										
乳び腹水	胃腸障害、その他 (乳び腹水)										
術後創感染	創傷感染										
創し開	創し開										

[B群] 対象:2014年3月14日までに術後所見記録2が回収された406例

	CTCAE4.0	G0	G1	G2	G3	G4	%G2-4	%G3-4	%G4	合計	欠損
瘵液瘵	瘵瘵										
術後出血	術後出血										
腹腔内膿瘍	腹膜炎										
消化管縫合不全	胃腸吻合部漏出										
消化管 吻合部狭窄	傷害、中毒および 処置合併症、その他 (吻合部狭窄)										
胆嚢炎	胆嚢炎										
ダンピング症候群	胃腸障害、その他 (ダンピング症候群)										
胃排出遅延	胃腸障害、その他 (胃排出遅延)										
逆流性食道炎	胃食道逆流性疾患										
閉塞性イレウス	小腸閉塞										
麻痺性イレウス	イレウス										
血栓症/塞栓症	血栓塞栓症										
術後肺炎	肺炎										
乳び腹水	胃腸障害、その他 (乳び腹水)										
術後創感染	創傷感染										
創し開	創し開										

胃がんグループ/参加医療機関のみ

[合計] 対象:2014年3月14日までに術後所見記録2が回収された812例

	CTCAE4.0	G0	G1	G2	G3	G4	%G2-4	%G3-4	%G4	合計	欠損
瘵液瘵	瘵瘵	793	9	6	4	0	1.2	0.5	0	812	
術後出血	術後出血	803	6	1	2	0	0.4	0.2	0	812	
腹腔内膿瘍	腹膜炎	799	—	—	13	0	1.6	1.6	0	812	
消化管縫合不全	胃腸吻合部漏出	807	0	3	2	0	0.6	0.2	0	812	
消化管 吻合部狭窄	傷害、中毒および 処置合併症、その他 (吻合部狭窄)	811	1	0	0	0	0	0	0	812	
胆嚢炎	胆嚢炎	808	—	4	0	0	0.5	0	0	812	
ダンピング症候群	胃腸障害、その他 (ダンピング症候群)	809	3	0	0	0	0	0	0	812	
胃排出遅延	胃腸障害、その他 (胃排出遅延)	779	12	15	6	0	2.6	0.7	0	812	
逆流性食道炎	胃食道逆流性疾患	812	0	0	0	—	0	0	—	812	
閉塞性イレウス	小腸閉塞	811	0	0	1	0	0.1	0.1	0	812	
麻痺性イレウス	イレウス	811	—	1	0	0	0.1	0	0	812	
血栓症/塞栓症	血栓塞栓症	812	0	0	0	0	0	0	0	812	
術後肺炎	肺感染	804	—	4	4	0	1	0.5	0	812	
乳び腹水	胃腸障害、その他 (乳び腹水)	812	0	0	0	0	0	0	0	812	
術後創感染	創傷感染	799	—	11	2	0	1.6	0.2	0	812	
創し開	創し開	810	1	0	1	0	0.1	0.1	0	812	